

ステークホルダを中心とする ゴール優先度決定プロセスの提案

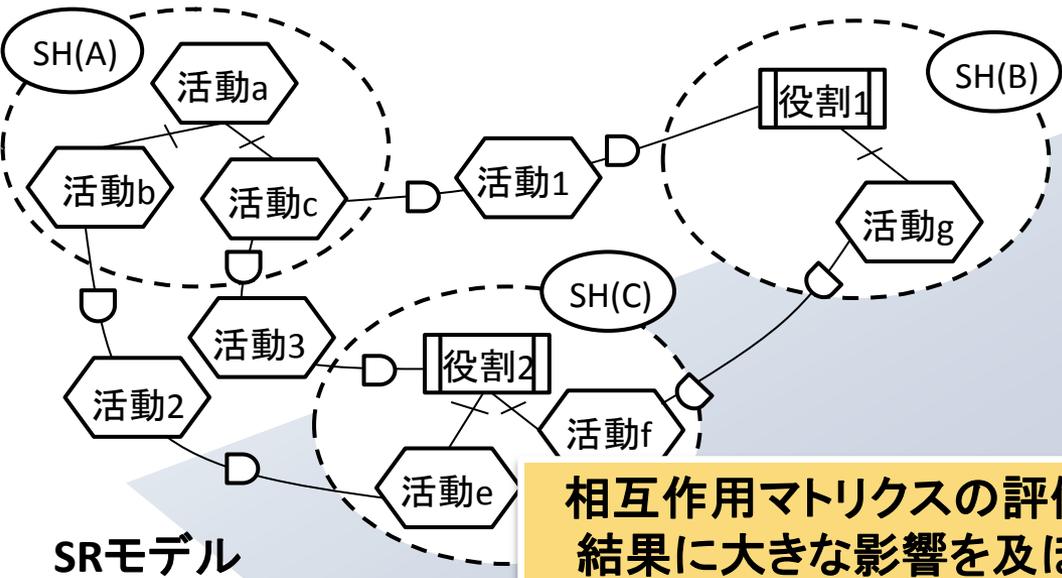
2008MI105 木下康介

2008MI274 山下和希

シナリオ

- ステークホルダ分析の課題
- 相互作用マトリクスの積, 商の意味
- SRモデルと相互作用マトリクスの関係
- OpenOME
- まとめと今後の課題
- 参考文献

ステークホルダ分析の課題



SRモデル

相互作用マトリクスの評価が結果に大きな影響を及ぼす

相互作用マトリクスの積, 商の意味

- 積P(受動的値)
- 商Q(能動的値)

結果に対する説明が可能

SRモデルと相互作用マトリクスの関係

- リンクの属性分類
- 得点付けの基準となる要素の再検討

SRモデルと相互作用マトリクスとの理解しやすい対応付けが可能

相互作用マトリクス

相互関係	結果	SH(A)	SH(B)	SH(C)	総和(AS) 能動的	商Q (AS/PS)
原因						
SH(A)						
SH(B)						
SH(C)						
受動的総和(PS)						
積P (AS*PS)						

相互作用マトリクスの積, 商の意味

積P(能動的値)

各ステークホルダと他ステークホルダとの相互依存度の大きさを表す

商Q(受動的値)

各ステークホルダが受動的なステークホルダであるのか, 能動的なステークホルダであるのかを表す

相互関係 原因	結果	SH(A)	SH(B)	SH(C)	総和(AS) 能動的	商Q (AS/PS)
SH(A)					10	2
SH(B)					100	2
SH(C)					5	0.5
受動的総和(PS)		5	50	10		
積P (AS*PS)		50	5000	50		

- SH(A), SH(B)は商Qは同じであるが, 積PはSH(B)が高い
- SH(B)は相互依存度が大きく, かつ, 能動的なステークホルダを表す

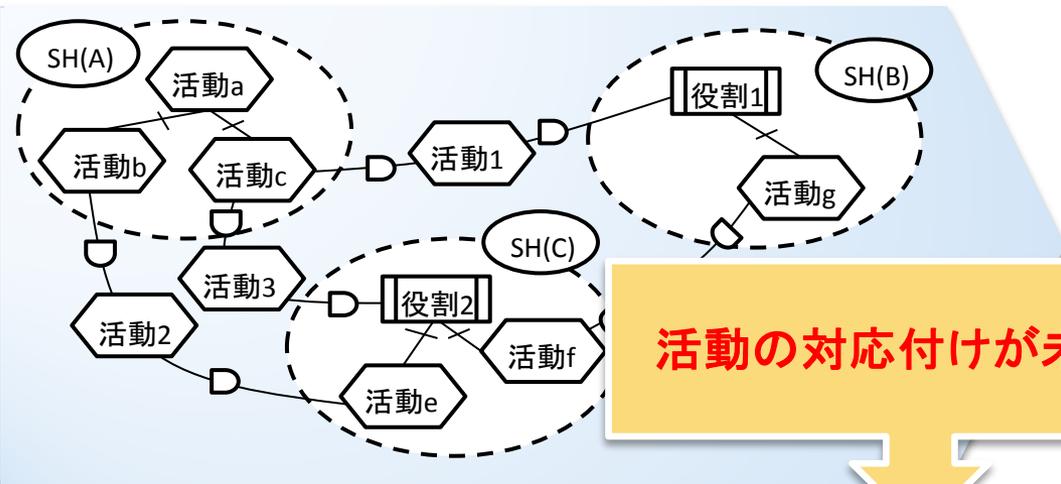
- SH(A), SH(B)は積Pは同じであるが, 商Qは異なる
- 相互依存度は同じであるが, SH(A)は能動的, SH(B)は受動的なステークホルダを表す

課題点

- 和, 差では求めることはできないのか(ex. $16 * 7 = 112$, $8 * 15 = 120$ $16 + 7 = 8 + 15$)
- P(能動的値), Q(受動的値)の意味を理解しやすい名前に変更

SRモデルと相互作用マトリクスの関係[1/2]

相互作用マトリクスの項目の再検討



相互関係	結果	SH(A)	SH(B)	SH(C)	総和(AS)	能動的	商Q (AS/PS)
原因							
SH(A)							
SH(B)							
	和(PS)						
	積P (AS*PS)						

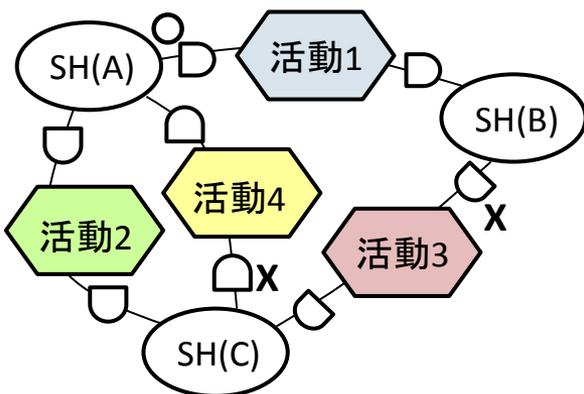
活動の対応付けが未定義

相互関係	結果	SH(A)	SH(B)	..	活動値 総和	能動的 総和 (AS)	商Q (AS/PS)
SH(A)	活動a						
	活動b						
	活動c						
SH(A)	活動d						
	活動e						
:	:						

SRモデルと相互作用マトリクスの関係[2/2]

リンクに属性の付加

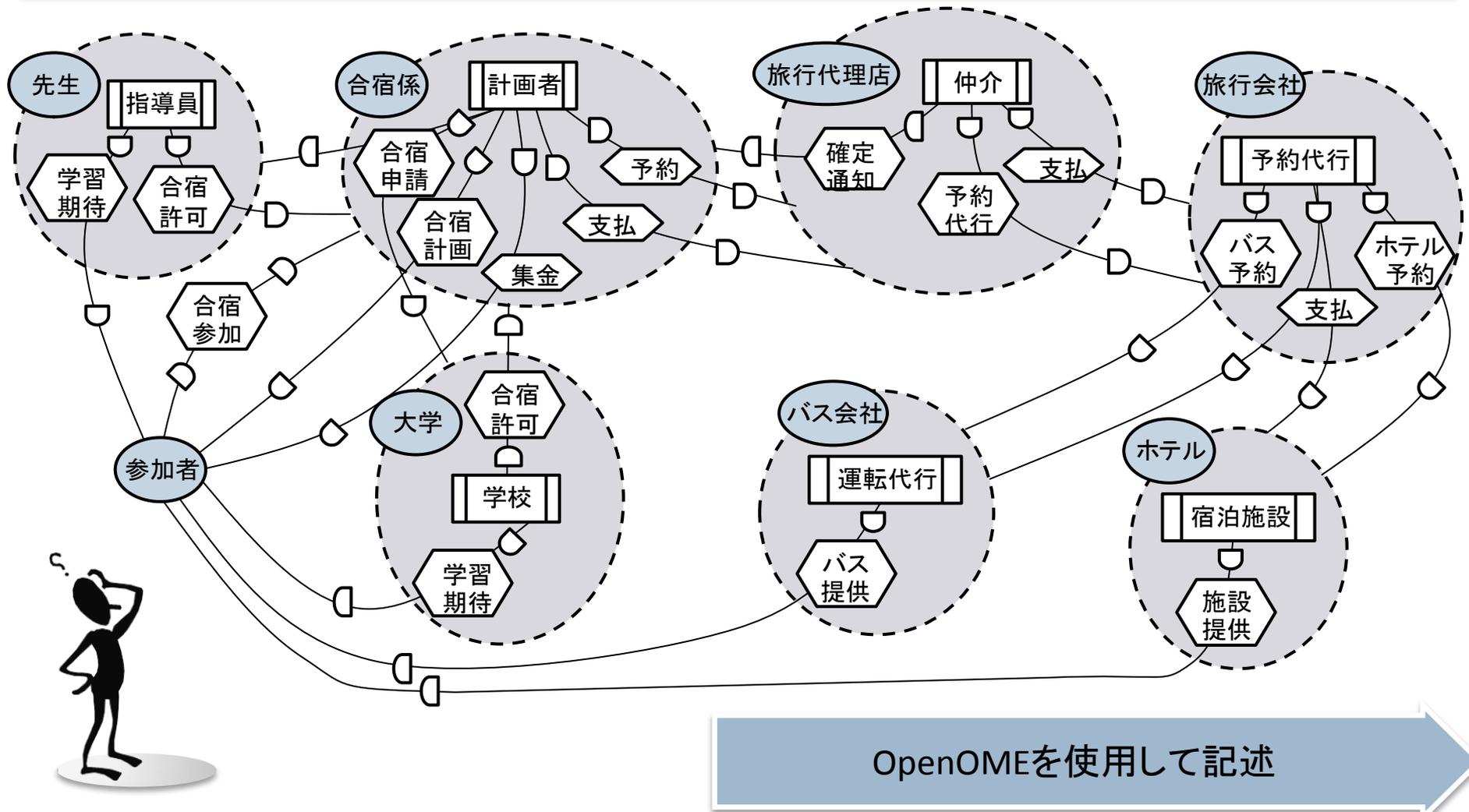
依存	表記	説明	得点
依存なし		依存関係なし	0
オープン依存		重大な影響とならない活動の依存	1
コミット依存		重大な影響となる活動の依存	2
クリティカル依存		クリティカルな影響となる活動の依存	3



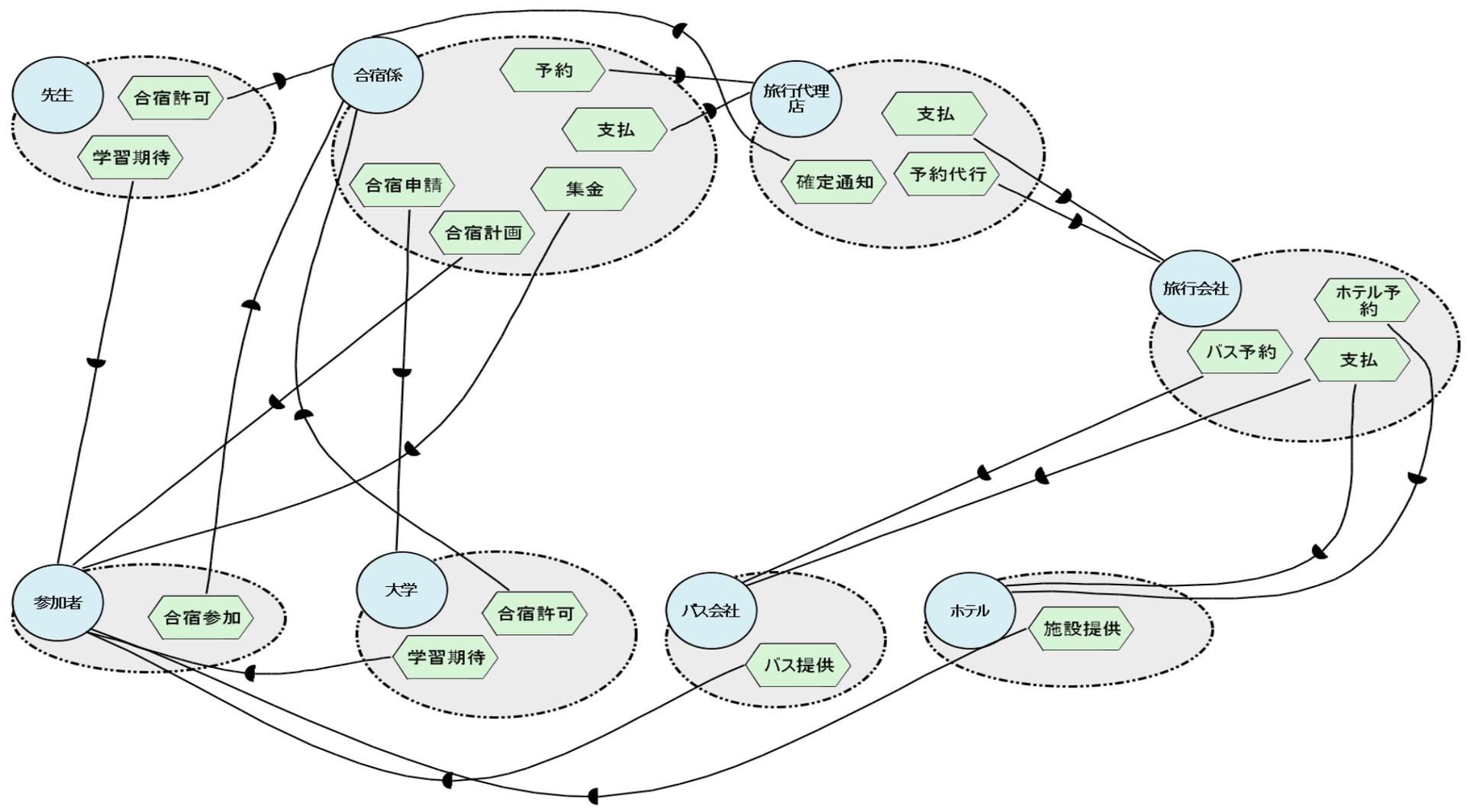
相互関係原因	結果	SH(A)	SH(B)	SH(C)	活動値 総和	(AS) 総和	能動的
SH(A)	活動1	—	1	0	1	3	
	活動2	—	0	2	2		
SH(B)	活動3	0	—	3	3	6	
SH(C)	活動4	3	0	—	3		

OpenOME[1/3]

i*モデルの作成をサポートするグラフィカルなツール

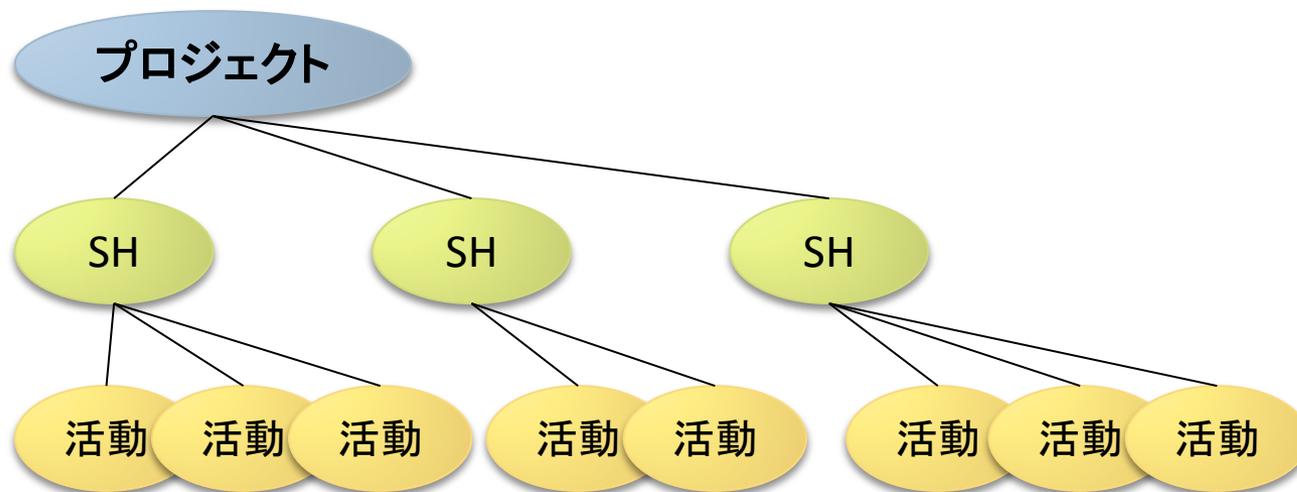


OpenOME[2/3]



OpenOME[3/3]

OpenOMEで作成したSRモデルから得られる木構造



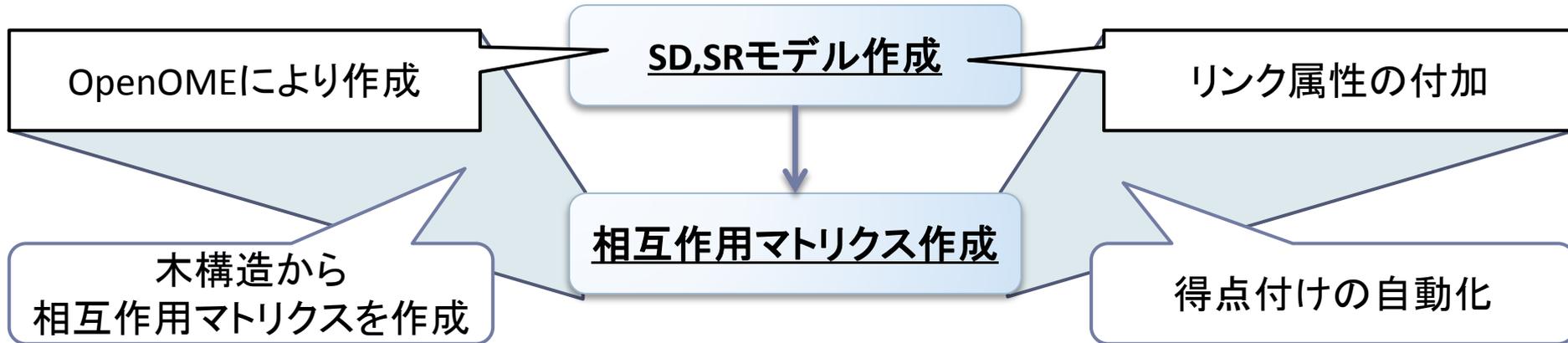
木構造から相互作用マトリクスの作成を検討

Tree View

Name	Link	#
バス会社		
バス提供		0
ホテル		
施設提供		0
合宿係		
合宿計画		0
合宿申請		0
支払		0
集金		0
予約		0
参加者		
合宿参加		0
先生		
学習期待		0
合宿許可		0
大学		
学習期待		0
合宿許可		0
旅行会社		
バス予約		0
ホテル予約		0
支払		0
旅行代理店		
確定通知		0
支払		0
予約代行		0

まとめと今後の課題

まとめ



今後の課題

ステークホルダ分析のプロセスの定義

1. 積P と商Qの名前の決定
2. OpenOMEの理解と研究への適用の検討
3. リンク属性の付加方法の定義



参考文献

- D. Glaesser, Crisis Management in the Tourism Industry, くんぷる, 2008
- E. Yu , Social Modeling for Requirements Engineering , 2010.
- i* Intentional Strategic Actor Relationships modelling ,
<http://www.cs.toronto.edu/km/istar/#Software>.

ステークホルダを中心とする ゴール優先度決定プロセスの提案 END

2008MI105 木下康介
2008MI274 山下和希